

ホーム名：グループホーム天神橋やすらぎの里 2F親和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を貼り出しており、出退勤時だけでなくフロアの出入り時には確認できる環境である。また、入社時や勉強会では確認するようにしている。	理念は地域密着型サービス提供者としての役割を重視したものとなっている。またフロア名の親和、高話、大輪と関連付けられた具体的な行動指針と理念は各フロアに貼り出され、職員間で共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	外出は日課となっており、馴染みの方もできている。また、自治会にも加入し地域のイベントにも積極的に参加している。	自治会に加入し、地蔵盆等イベントに参加している。入居者の半分位はもともとこの地域の住民であったので、深い繋がりが継続されている。近くの福祉専門学校の外国人生徒との交流、ボランティア活動もある。現在コロナ禍のため中止されているが地域の老人会主催のふれあい喫茶にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々やご家族の相談などで来苑する機会が多くある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催を行っており、ご家族や地域の方々などに意見を頂いている。またスタッフにも共有できるように申し送り時に報告している。	参加者は地域包括センター担当者2名、高齢の自治会長との連携を取ってくれる地域の代表者、家族1～2名、入居者である。開催日は地域包括の都合で決定し、平日となっている。事業所の報告だけでなく、質問要望について話し合っている。	開催曜日の関係で出席できない家族もいると思われるので、議事録は参加されていない家族にも送付していただきたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	疑問点などは随時連絡するとともに、日々の困難事例などはGH連絡会などを利用し報告・相談を行っている。	2月に入居者が買い物中に一時的に行方不明になったが、市・区役所、警察、地域見守隊の協力のお陰で解決できた。また様々な事例、対処方法、予防策等の情報を得て改善点がわかり、家族への十分な説明と話し合いで納得してもらえた。よい連携がみられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的に行っており、不参加者には、資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また施設内は自由に行き来できる環境作りをスタッフ同士連携を取り、行っている。	1ユニット6名なのでベッド柵はもとより離床センサーも使用せず、見守りで対応している。また玄関は施錠しているものの、各階のエレベーターは自由に乗れる。スピーチロック等はないが、管理者は職員の言葉や口調が気になる時はその都度注意をして、入居者の抑圧感のない暮らしを支援している。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を定期的開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主任が積極的に現場に入り日々のケアを確認している。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を定期的開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が学べるようにしている。また必要な方や相談があった場合には各関係機関に取り次ぐよう支援できる環境にある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には管理者+1名の体制で十分な説明時間を設けている。また来苑時は話しやすい雰囲気作りを努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に風通しの良い環境を作れるよう管理者も現場にはいるようにしている。また、行事などにも家族が参加できる機会を設けている。</p>	<p>入居者個人に関する意見や要望は申し送りノートやサービス担当者会議で共有する。コロナ感染対策のため家族が行事への参加や面会ができなかった時、写真や動画をラインで送ったりしていた。近隣に住む家族は面会できなくとも直接来る場合もあり話を聞いて運営やケアにつなげている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>勉強会で発言できる機会を設けると同時に、管理者は勤務時にはスタッフ全員に声をかけるよう努めている。また代表者も管理者だけでなくスタッフの声を聴けるよう施設に訪れる機会を多く設けている。</p>	<p>月1回勉強会を行ない、その後ざっくばらんな雰囲気の情報交換の場を設けている。日常的なミーティングは申し送りにおいて行ない、緊急性のないことはサービス担当者会議で話し合う。申し送りノートは全体と各階用を併用して職員間で情報共有して日々のケアに反映させている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>非常勤からの常勤への転換や時給の見直しなど、随時行っている。また、資格支援も行っている。昨年、2名が資格取得を行っている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修に参加、また外部研修などの参加を積極的に支援している。その際には、業務内で参加できるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者を中心に交流会や連絡会、医師会の勉強会などに参加し交流を深め、施設サービスの見直し・向上に繋げている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前のアセスメントを十分に行い、その際には本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。また情報は全スタッフで共有している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談・申込時には、十分な時間をとり傾聴することで安心して頂けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りを行い、ニーズにあったサービスを提案・提供できるよう、必要であれば法人内またはグループ内の専門職よりサービス案内などを行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事などのなかでスタッフも教わる事が多く、生活を共にする家族のような関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時などには話しやすい雰囲気作りを行い、生活の様子を伝えるとともに外出や行事などにもお手伝い頂けるよう、些細なことでも連絡するなど日頃より積極的にコミュニケーションをとっている。手書きのお手紙送付を開始した。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣の方が多く、散歩などで馴染みの通りを巡っている。また、遠方の方でも知人の面会がありその際にはゆっくりと話せる環境作りに努めるとともに日頃の様子などをお伝えしている。</p>	<p>行きつけの美容院やお寺参りを継続している入居者もいる。また家族とともに入居者の生まれた韓国への旅行をした方もいる。コロナ禍の現在は近隣の散歩のみであるが、普段は前述のふれあい喫茶や商店街等にも出掛けて、なじみの人や場所との関係の継続に努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行で困難な方もいるが、スタッフが間にはいることで利用者同士の関わりを増やしている。また、フロアで過ごす時間を増やすよう努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご退去になった方には、写真をDVDしお渡ししている。逝去された際には連絡があった。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃より本人の言葉や表情などを記録に残すことで思いを把握できるよう努めている。</p>	<p>意向を伝えることが難しい入居者の場合、家族から入居時や面会時に情報を得たり、どのような声掛けをすれば反応があったか等記録して理解を図っている。減薬により発語や表情が豊かになった結果、意向を把握しやすくなったケースもある。一方、希望を率直に伝えてくれる入居者には可能な限り希望に添えるよう努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居時の聞き取りだけでなく、日々のコミュニケーションで聞いたことは記録に残し共有している。また家族の面会時などにも聞き取りを行っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の記録をしっかりと記入し、スタッフ全員が変化や現状を把握できるよう努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見を計画作成者だけでなく、管理者や主任、フロアスタッフや主治医・訪看などで話し合いよりよいケアに繋がれるよう行っている。</p>	<p>介護計画のモニタリングは大体3ヶ月毎であるが、医師往診が一人につき月2回、及び訪問看護もあり、家族は立会または電話での連絡で、スタッフも含めてこれらの連携はスムーズである。ユニットごとに計画作成者は異なるが、どれも入居者の状態に即したケアになるように配慮されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録は詳細に記入するとともに、スタッフは出勤前には記録に目を通して。情報共有を行い、必要であればその都度、管理者に相談しケアの見直しを実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>施設内だけに留まらず、家族やグループ内での協力を仰ぎ、可能な限りニーズに対応できるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ふれあい喫茶の参加を継続して行っている。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>2名の方は施設主治医が以前よりかかりつけであった為、継続。その他の方は、本人・家族への案内、主治医の紹介などで納得のうえ変更している。訪問鍼灸などは継続あり。新入居1名の方はこれまで通り通院をしている。</p>	<p>石井クリニックが協力医であり訪問看護も担当している。入居前の専門かかりつけ医に受診しているのは各階1名ぐらいの入居者である。入居者が専門かかりつけ医に受診した時は主治医及びGHにサマリーとして情報が伝達され、共有されている。かかりつけ医との関係も良好である。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>4回/週の訪看があり、その都度日勤リーダーより各階申し送りを行い、情報共有を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も本人、家族とは密に連絡をとっている。また病院とも施設のみ情報交換を行うのではなく、主治医からも病院と直接情報交換を実施している為、E N T後も安心して生活できるよう関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明を行っている。また、終末期においては、その都度家族・主治医・訪看などを交えて話し、チームで支援できるよう努めている。</p>	<p>現在一人看取りの状態の入居者がおり、マニュアル整備、研修、医師、家族、スタッフなど関係者との話し合いが頻繁に行われている。過去の例では希望する家族が終末期に入居者と同室に宿泊することもおこなわれた。協力医からのサポートを得て、良いチームワークが見られる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を定期的で開催するとともに不参加者には、資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主治医には24時間の連絡体制にある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を2回/年行っており、避難場所においては貼り出しをし、スタッフ全員が把握できるようにしている。また、地域の方々とも連携を持てるよう日頃よりイベントに参加するなど交流をしている。</p>	<p>年2回、原則1回は消防署立会いで日中・夜間想定で避難訓練を行なっている。去年は地域住民主催の水害対策の訓練にも職員が参加した。4階、3階、2階からの歩行困難者の降下訓練も一応行なっている。また隣の老人ホームとの協力体制がある。</p>	<p>消防署に火災時はどういう初期対応をとるべきか、相談しておいてもらいたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格やプライバシーを損なわないよう配慮している。</p>	<p>利用者には名字のさん付けで呼んでいるが、呼ばれ方を指定する人には(例「ママ」) そのように呼んでいる。トイレの失敗の時などは奥のトイレに誘導などのさりげない配慮もみられる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃よりコミュニケーションを大切に想いを伝えやすい関係作りを行うとともに、選択できるような声かけを行うよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>定員が通常のGHより少ない為、関わる時間が多くありそれぞれのペースで過ごせるよう配慮している。可能な限り希望に対応できるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時や入浴時には、スタッフと着替えを選ぶようにしている。またカットなども訪問ではなく店を利用している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や盛り付け、配膳、洗い物など可能な限りスタッフと一緒にやっている。また選択メニューや行事などには、アンケートを取っている。</p>	<p>外部の業者から食材が届けられ内部で調理している。偏食の入居者にメニューを変更したり、希望を聞いて変更したり臨機応変に対応している。各階約2名の入居者が準備や片付けを手伝っている。2ヶ月に1回出張屋台が来るのが入居者と職員の楽しみとなっている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>主治医の指示のもと、必要な方に対しては水分チェックや計測などを実施している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。また、衛生士と連携しケアのアドバイスをもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別に排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けを実施している。トイレ誘導実施により常時オムツの方はいない。</p>	<p>排泄チェック&amp;記録はしっかり行われている。訪問看護師のサポートにより薬に頼らない便秘対策で体操、歩行量、水分量に注意している。夜間も含めて常時おむつは全館で2名のみである。排泄の自立支援への高い意識が見られる。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や体操・歩行などに努めるとともに毎朝、ヨーグルトの提供している。また訪看と連携をとり腹部マッサージやホットパックなども必要に応じて実施している。センナ茶の提供をしている。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週に2回以上、お好きなタイミングで入れるよう声掛けを行っている。</p>	<p>日曜日以外毎日入浴日としているので入居者はほぼ希望する日に入浴できる。週2回以上、毎日入浴される入居者もいる。風呂自体は介護用浴槽ではないため介護度が上がり二人介護でも対応不可能になれば家族の同意を得てシャワー浴となることもある。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入床・起床時間はそれぞれのペースで行っている。22時頃までフロアでTVを見られることもある。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情をファイリングしており、いつでも確認できる。また新しい薬が出た際には申し送りにて周知している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>外出による気分転換だけでなく、音楽やピアノ、民謡などこれまでの生活歴にあった楽しみを提供できるよう努めている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ほぼ毎日のように買い物や散歩などしている。近隣の方は自宅などに行くこともある。また、喫茶店やバスツアー(年2回)にも参加している。外食は家族の協力もある。</p>	<p>コロナ禍以前は毎日のように買い物・散歩に出かけ、ふれあい喫茶にも参加、協力医院と共同主催で年2回の日帰りバスツアーも行っていた。現在はコロナ感染予防のために買い物は控えているが、散歩はほぼ毎日続けている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理している方はいないが、可能な方は買い物時などお預かりしているお金で支払うように支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙や電話をする方はいない。</p>		

52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた装飾を行うようにしている。また、季節や時間に応じた空調や湿度管理を行っている。</p>	<p>共用空間は掃除が行き届き、1ユニット6名の少人数でくつろげる、家庭のような雰囲気がある。共有スペースには比較的小さいテーブルを3卓配置しているため圧迫感がなく窓も大きくて明るい。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>必要に応じて椅子やテーブルを移動するなど配慮している。ソファやキッチンカウンター横で過ごす方が多い。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全ての方が以前より使用していたものを持参している。写真や手紙などを家族が持参し、安心できる空間作りに努めている。</p>	<p>毎日居室の掃除を行い、リネンも週1回交換して清潔を保っている。入居者のなじみのものや好みにあわせて居室においている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっている。居室には番号ではわかりにくい為、一人ひとり、マークをつけている。</p>		



V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない